

と同神で、それを千速と誤られたのである。この地風感凛烈たるを以て、土壘を築いて神祠を置いてある。舊時釋迦如來の佛堂で、當山派山伏文珠院後に寶覺院又は和銅寺と稱したものに奉仕した。神職は東間村の酒井氏であつたが、寶曆の交和銅寺と争うて退去した。明治元年神佛混淆禁止の後和銅寺は復飾して寶達和銅といひ、七年嶺上の社は東間村の神社の奥社とせられた。

ホウダツザン 寶達山 羽咋郡の南境に在つて、越中に跨る。中央の一峰最も高く、之を寶達御前といひ、高さ六三七米、地質花崗閃綠岩、能登第一の高峰である。上に東間村なる手速比咩神社の奥殿があつて、俗に寶達權現と稱し、毎年四月廿三日・九月廿七日寄合三十二ヶ村によつて權現祭を行ふ。山中には多く藥草を産し、葛・薯蕷は有名である。又嘗て金鐵を出し、現に石灰・螢石を産する。山上の地は山崎・河原・上田・上田出・門前・小川・中野・麥生・今濱・米出・北川尻・寶達の入會である。

ホウダツサンミヤク 寶達山脈 能登の寶達山は、餘脈東北に走せて石動山を隔起せしめ、更に東走越中の國界を隔てて海に繋ぎ、この間二國を聯絡する山徑多く、軍事上の要害をなしてゐる。されば建武二年越中の國司中院定清は、守護専門利清に迫られて石動山に退いたことがあり、壽永二年源義仲は、平氏擧手の軍を襲ふ爲に水見から能登に入つたことがある。義仲の通路は今の所謂志雄谷内又は論田越を突破したのであらう。その志雄谷内は、天平年中大伴家持が通過した志平路なるべく、觀應元年得江石王丸の越中勢を防

禦する爲、志雄山に壘濠を構へたといふも是である。能登の守護畠山氏が築いた七尾古城も、またこの山脈の末端に近く、鹿島郡の海陸を控制する地点にある。而して天正十二年佐々成政が前田氏の支堡末森を攻めた時、澤川から寶達山の北麓梨木峠を越えたのは、眞に牧童樵夫の細徑を取つたもので、彼は奇襲によつて奇功を奏せんとしたのであるが、その目的を達する能はざるや、再び隘路に大軍を収めることを得ず、遠く俱利伽羅方面に迂回して退却した。

ホウチイン 包智院 ↓オウチイン 昌智院。

ホウチユウビヨウワミヨウホンゾウ 庵爾備用和名本草 十三卷。藩の老臣前田駿河守孝貞が前田綱紀の食膳の用に資するため、洛陽向井元升に編述させたもの。寛文十二年成り、次いで世に刊行した。巻首に木下順庵・中山三柳・三宅道乙・府軒直直の序がある。

ホウチンソウチン 寶珍宗珍 加賀永祥寺の開山。初め永安寺支路統玄に參して曹洞の宗旨を傳へられ、又祇陀寺大智によつて智證を益し、後洞谷寺に出世し、永安寺に移り、永祥寺の開山となり、又河北郡に寶藏寺を建て、その開山となつた。延文二年寂。

ホウトウイン 寶幢院 江沼郡横北郷内に在つたが今は存せぬ。陸涼軒日録延徳三年六月廿九日に、『賀州横北郷内寶幢院事、爲記纂都管開基、大智院殿様御祈禱所候。』とある。大智院は足利義親である。

ホウトウイン 寶幢院 延寶の金澤剛に、寶幢寺のがけ下に寶幢院を記載し、その隣地を松山寺とする。即ち寶幢寺坂の傍で、今の

松山寺の門内に當る所であるが、松山寺にはさうした傳説がない。或は寶幢寺の隠居所でもあつたのであるまいか。

ホウトウウジ 寶幢寺 金澤百姓町に在つて、眞言宗に屬する。初め前田利家の越前府中に居た時、覺親法印に祈禱を命じたが、利長は之を松任に伴うて愛宕堂を建立せしめ、尋いで富山を経て金澤に來り、寶幢寺坂(今の八坂)の上に愛宕堂を祀り、光高の時に及んで眞言宗觸頭たらしめた。後寶永元年小立野上野に轉じ、明治八年更に今の所に移つた。因に言ふ。寶幢寺坂の上の愛宕堂は、同じ小立野ながら後に本多氏邸にある地にあつた明王院の愛宕堂とは別である。

ホウトウウジ 寶幢寺 鹿島郡小島に在つて、淨土宗に屬する。開基は明徳二年炭發和尙。大永六年一宮社務職年貢納帳に府中寶幢寺とあるもので、後に轉地したのである。能登各跡志に、『淨土宗寶幢寺といふに、平重盛卿の守り佛、同遺佛等あり。』とある。

ホウトウウジ 寶幢寺 鳳至郡曹洞宗總持寺山内に在つて、應仁元年高岸の建立に係り、同山内妙高庵に隸した。今は無い。

ホウトウウジ 寶塔寺 鹿島郡藤橋に在つて、曹洞宗に屬し、長齡寺二代用山傳徐を開山とする。貞享二年の由來書に、もと無住であつたのを、大透圭徐が天正中住持を置いてから長齡寺の末寺になつたといふものは是であらう。

ホウドウジ 法道寺 江沼郡弓波に在つたといふ。江沼郡在々所々記に、村の東方に法道寺といふ寺屋敷の跡があつて、畑の中に大石が一つあるとし、茂徳紀聞には、それを塔

の臺と記してゐる。

ホウトウウジザカ 寶幢寺坂 金澤に在つて、今は八坂といふ。昔此の坂の上東南に寶幢寺があつたための稱であり、又奥村伊豫居邸の近地なる故伊豫殿坂とも呼んだ。元來狭い坂であつたが、竹澤御殿建築につき、文政三年五月より擴張工事を行ひ、同年九月落成した。

ホウトウウジリヨウ 寶幢寺領 陸涼軒日録長祿三年八月廿四日の條に、『寶幢寺領加賀國倉月庄新開之舉云々。』とある。この寶幢寺は京都にあつて、後の鹿王院といふものであらう。

ホウトクイン 法徳院 加賀藩主第十三代前田齊泰の子、大聖寺侯第十四代前田利曾の法號。詳しくは法徳院壽昌道潤日恭大居士。

ホウネン 芳年 享保の頃の金澤に於ける名妓であつたといふ。詩を作り書を能くし、時人その名を言はずして能書といふた。その詩に、『今宵桃李月。一倍他樓遊。却惱清香影。妾衣不永留。』といふのがあると傳へる。

ホウネンジ 法然寺 金澤松本町に在つて、影向山と號し、淨土宗に屬する。慶長八年傳發貞運を開山とし、延寶二年安樂寺の呑龍を中興とする。初め百姓町に在つたが、享保十五年來空の時今の地に移つた。

ホウネンジバシ 法然寺橋 ↓ヒヤクシヨウバシ 百姓橋。